

果てなき船路 (1940)

THE LONG VOYAGE HOME

メディア 映画
ジャンル ドラマ 戦争
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 105分
初公開日 1949/05/20
公開情報 セントラル
リバイバル 1996/ [ケイブルホーク]

【解説】

サイレント期の港を舞台にした数々の名作（「紐育の波止場」など）を彷彿とさせる、G・トーランドの表現主義的と言っていい陰影に富んだカメラが印象的な、J・フォードの経歴の中でも異色の、E・オニールの戯曲の映画化だ。

西インド諸島のある島に停泊中の商船グレンケアン。船員たちは下船を許されず、一人最古参のドリストル（ミッチェル）が酒を調達し、女たちを呼んでくる。一人浮かぬ顔のスミティ（ハンター）もみなが浮かれ騒ぐのを見るうち明るさを取り戻すが、乱闘騒ぎとなって宴はお開きとなる。大戦の勃発を聞き、船の積み荷は危険なTNT爆弾に変更。支払いも増すが、秘密厳守のため寄港地での下船は一切許されないと聞くと、スミティは逃げ出すが出発間際に連れ戻される。彼はアル中なのだが、夜間、船中を酒を物色して回る様がスパイ行為と間違われ、みなに私刑にされかかる。が、彼が必死に守ろうとした金属の箱の中にあったのは、士官を免官になり、船乗りに墜ちた夫を励ます妻の感動的な手紙だった。これを読み上げたドリスコルは、戦争の恐怖に踊らされた自分たちの愚かさを嘲笑う。スウェーデン青年のオリ（ウェイン）はこの航海を最後に故郷に戻って農場を始めるつもりだ。そのための資金は充分貯まった。それを上着の襟首に縫いつけて、仲間と共に到着港のロンドンで下船。だが、北欧行きの船が出るまで時間があり、仲間と過ごすうち、闇酒場の従業員に身ぐるみ剥がされそうになるが、仲間たちに救われる（この上陸場面の乱痴気はフォードらしい豪快さとスリルに満ちて最高）。が、その騒ぎで卒倒したドリスコルは“悪魔の船”と噂されるアミンドラ号に引きずられて行ってしまう。

日本では、フォードを西部劇と叙情の作家と決めてかかる向きに酷評された作品だが、その暗い美しさを見直され、近年頻繁に再公開されている傑作。原作者のオニール自身、幾度となく見ていたという。

【クレジット】

監督	ジョン・フォード	John Ford	
製作	ウォルター・ウェンジャー	Walter Wanger	(クレジットなし)
	ジョン・フォード	John Ford	
原作戯曲	ユージン・オニール	Eugene O'Neill	
脚本	ダドリー・ニコルズ	Dudley Nichols	
撮影	グレッグ・トーランド	Gregg Toland	
編集	シャーマン・トッド	Sherman Todd	
音楽	リチャード・ヘイグマン	Richard Hageman	
出演	ジョン・ウェイン	John Wayne	オリ・オルセン
	トーマス・ミッチェル	Thomas Mitchell	ドリスコル
	イアン・ハンター	Ian Hunter	スミティ
	ウォード・ボンド	Ward Bond	ヤンク
	バリー・フィッツジェラルド	Barry Fitzgerald	コッキー

ウィルフリッド・ローソン	Wilfrid Lawson	船長
ミルドレッド・ナトウィック	Mildred Natwick	フリーダ
ジョン・クォーレン	John Qualen	アクセル
アーサー・シールズ	Arthur Shields	ドンキーマン
ジョー・ソーヤー	Joe Sawyer	デイヴィス
J・M・ケリガン	J. M. Kerrigan	クリンプ
ラファエラ・オティアノ	Rafaela Ottiano	ベラ